

年 組 名前:

問1

身延町の和紙製造業者が開発した製法を、
教えてください。

.....
.....
.....
.....

問2

この製法で使用する「ビーター」は、なにをする機械ですか。

.....
.....

問3

デニムと和紙の共通点と、その利点を教えてください。

・共通点:

・利 点:

問4

笠井社長は、この取り組みを「循環型社会の実現につなげたい」と話しています。「循環型社会」とは、どのようなことか、説明してください。

.....
.....

デニム生地 紙に加工

身延・山十製紙 開発



デニムの端切れから取り出した繊維を混ぜて作った和紙と、その和紙で作ったポーチ

「現在は所有している業者が全国でも少ない」としている。ビーターで繊維状にしたデニム生地を和紙の原料と混ぜておくことで、デニムの色合いが残った青い和紙に仕上がります。デニムも和紙も原料は天然素材なので、土に埋めた場合、数カ月で生分解されるといいます。

デニム生地は、製造する際にデニム生地の端切れが出る。これを所有。ビーターにデニム生地の端切れを入れ、何度もほぐす工程を繰り返すことで、細かい繊維状になる。ビーターは昔ながらの機械で、同社は「現在は所有している業者が全国でも少ない」としている。ビーターで繊維状にしたデニム生地を和紙の原料と混ぜておくことで、デニムの色合いが残った青い和紙に仕上がります。デニムも和紙も原料は天然素材なので、土に埋めた場合、数カ月で生分解されるといいます。

和紙製造業の山十製紙（身延町西嶋、笠井伸二社長）などが、デニム生地の端切れを紙に加工する製法を開発した。同社は県産業技術センターなどと共同で「洗える和紙」の製法で特許を申請中。今後は洗える和紙を製造する際、デニム生地の繊維を風合いの表現材料として活用する。

〈渡辺真紗美〉

ジーンズ製造の端切れ活用

同社は「岡山県を中心とする国産ジーンズの産地では大量の端切れの活用方法が課題となっており、紙として加工する技術にジーンズの製造業者が高い関心を示している」と説明している。

(2024年3月9日付 山梨日日新聞7面)